

クモ類 キシノウエトタテグモ



©小野展嗣

キシノウエトタテグモ



キシノウエトタテグモの巣 (扉を開いた状態)

©小野展嗣



キシノウエトタテグモの巣 (扉を閉めた状態)

©小野展嗣

体の特徴

体長はメスが 12～20mm、オスが 10～15mm です。頭胸部は光沢のある黒褐色、腹部は褐色ないし黒褐色で、背面の中央部から後方にかけて数対の白色の横条状の斑紋があります(斑紋が不明瞭な個体もあります)。

生息環境

地面に、深さ 5～7cm の管状の巣穴(住居)を作り、入り口に片開きの扉をつけて潜んでいて、獲物の昆虫が通ると飛び出して捕え、穴の中に引きずり込んで食べます。本来は森の中の地面に生活するクモですが、寺や神社の境内や人家の周辺にも生息しています。

いつ、どんな場所で見られる？

メスは一年中、オスは 9～10 月頃みられます。石垣の間の土の部分、土台石の脇や縁の下、崖地や切りとおし、森の中の斜面の大木の根元などの雨のかかりにくい場所で巣の扉(写真)が見つかります。梅雨時に巣穴からクモタケという冬虫夏草が出ることがあります。

似ている種類との見分け方

同属の近似種との区別は困難ですが、伊豆諸島にはこの種しかいません。また、同じような扉を付ける別属のキノボリタテグモは樹木の幹や岩の上に巣を作ります。